



# 令和5年度 4月 人権一口講座



## 「新しい旅立ち」

ドイツに留学していた息子が帰ってくる。ヨーロッパに向かう時もそうであったが、帰国する際も飛行機は東ヨーロッパ上空を飛ぶことはせず大きく迂回し中東上空を飛ぶのだそうだ。乗り継ぎを含め十五時間の帰国の旅。

息子の留学目的は、「熊本の地で球技競技者をもっと増やしたい。そして熊本を全国に通用する強豪の地にしたい。だから、小中学生や高校生の育成を海外で学んできたい!」ということだった。息子は昨年、海外留学を決め単身ドイツへと旅立った。語学力が未熟なので、まずはハイデルベルクでホームステイをさせてもらいながら語学学校へ通った。ホームステイ先の日本人のお母さんはとても優しく接してくれ、折れそうな心を支えてくれた。

ホームステイをしている期間中に、自分自身で受け入れてくれる実業団探しをしなければ…。日本にいる時から相談に乗ってくれていたデュッセルドルフの商社勤務の方に、受け入れ先探しを手伝ってもらった。見つかった先は、ドイツ・ザクセン州にある強豪チーム。

昨夏より、ドイツ国内で行われていたハンドボールリーグに帯同して技術を学んだ。「さすがはほんまもんや!」一つ一つのプレーがスピードとパワーに溢れている。毎試合毎試合、目を輝かせて見たというのである。試合時にはベンチに座って、監督の采配を横で見え感じ取り、選手たちを声で鼓舞したそうである。時間を見つけ、下部組織の練成会にも一緒に参加していた。そんな彼が留学を終えようとした矢先、内定していた職場から採用見送りの連絡を受ける。

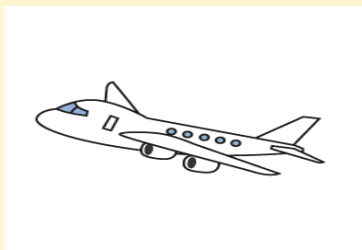
「え?」掛け合おうとしても自分は海外にいる、どうしようもない。…。それから後、息子は奮起。新しい職場探しである。国内では「内定通知」を受け、卒業前であっても企業での研修に入っている時期である。しかし、息子はめげなかった。ある企業を見つけ、ドイツと日本間を繋いでオンライン面接を受けた。…「受かった!」

熊本の地では残念ながら縁がなく働くことは出来なかった。けれど、新天地で息子はやりたいことを思う存分(ハラいっぴゃあ)やってくれることと思う。

3月は別れを惜しむ月でもあり、新しい門出に向かって旅立つ月でもあります。そして、4月は「出発」「活動開始」の月です。

この3月4月にいろいろな経験をした方がいらつしやるでしょう。けど、「心機一転」心新たに動き始めましょう! 何かしらのスタートを始める方々に向けて、**ひとつひとつ**、「**皆さんに幸多からんことを!**」私は、そう願ってやみません。

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」令和5年度 四月号より)



短いメッセージ ころんでも いっしょにはするよ  
わたしがいるから だいじょうぶだよ

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 春竹小学校2年 石田ほのかさん(令和4年度の作品より)